

2017. 9. 21 (木)
河北新報

声の交差点

■「幸五郎魂」

乳井 昭道 73歳

(宮城県川崎町・自営業)

「声の交差点」投稿の常連でもあった仙台市若林区荒町の文房具店主、出雲幸

古里に根付け

五郎さんが7日に86歳で逝ってしまいました。

本欄に寄せた彼の最後の投稿は「学都築いた教育者に光を」でした。つい一月初めの前の8月19日の掲載です。

病気にめげない投稿でした。新島襄の功績を伝える碑が仙台にあること。その碑が草に埋もれていることにいたたまれない思いをつづっています。

彼の投稿は常に社会への警鐘になっており、ある意味で社会教育者と言えるかもしれません。活動の幅は

広く街のにぎわいづくり、歴史探訪、先人の顕彰、音楽を中心にした文化イベントなどに奔走しました。

息子さんによると、その理念と行動力から、他人とぶつかることも多かったという事です。パワーの大きさ故でしょう。でも、街の改革には「変人」が必要なのです。

私も「荒町養賢堂」セミナーなどで彼と十数年一緒に活動して、「お前とはよくけんかした」と言われました。私はけんかとは思っていませんが、本音で意見を交わしたものです。

彼の生きた軌跡が、荒町にはたくさん残っています。そこには「幸五郎魂」が宿っています。安らかにお休みください。でも幸五郎魂は持っていないでください。